



ねらわれたマイコン学園

園哲也
北園書房 (文庫)
秋元

(4/15刊・¥320)

流行のマイコン(パソコン)と学園侵略とSFとを組み合わせた作品。パソコンマニアの主人公が、ある日学校のパソコンから、地球防衛軍のコンピュータと交信、学園が狙われていることを知る。地球侵略をたくらむ異星人による、マン・ミューティレーション(大量殺人)——パソコンによる、ネットワークへの侵入など、今まで出されたこの作者の作品よりは、アイデアも多い。

ただ、近未来に設定してあるけれど、出てくるパソコンは(今現在より)旧態依然としている。内容も取立てて目新しくはない。まあ、しかし、特に説得力を考えた風もなく、突如出てくるエイリアンとの戦争云々、予想はしていたものの、やはり唐突にすぎる。

もう少し、コンピュータに関する知識もほしいし、UFO関係も調べてほしい。わずか三百枚足らずのジュヴナイルなのだから、安易に書こうと思えば、いくらでも手が抜ける。本書が、全くの手抜きだとはいえないけれど、もうちょっと工夫が必要だ。せめて読み手を納得させてほしい(と、これも何度か書いたような気がする)。ジュヴナイルにも説得力を！